

第 6 回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム（仙台）に関する
プログラム検討会委員、宮城県、仙台市からの意見

プログラム検討会の委員からの意見

1. シンポジウムの企画・事前準備について

全体のテーマ検討、個別セッションの検討、コーディネーターの選任、個別講演者の選任等の各段階において、委員の意見を述べやすいように、円滑なスケジュール管理をお願いしたい。

セッションごとの総括と最終日の全体総括の機会を設け、貴重な意見交流を再確認する機会を設定したほうがよかった。

要旨集については、一般の参加者で専門家セッションに参加した方や、専門家でも分野の違う方のために、次回からは日本語要旨が必要。

講演者、テーマの選定時には、特定の意見に偏らないように各方面の意見が紹介されるように選択をお願いしたい。

2. シンポジウムの運営について

公開シンポジウムの趣旨からも講演者が使用したスライドは、速やかに公開していただきたい。

各セッションの運営については、参加者とのディスカッションの時間をより一層増やしていただきたい。

3. シンポジウムの講演内容について

(1) 一般向け

パネルディスカッション「政治の役割」では、日本政府としての「内分泌攪乱化学物質」に対する姿勢を紹介していただきたい。例えばSPEED98やその見直しを踏まえた講演等充実した内容としていただきたい。また、事前の質問だけでなく、会場からの質問の機会も是非設けて欲しい。

教育の場での「内分泌攪乱化学物質」に関するテーマは重要であるが、一般的な自然環境問題への取り組み実例だけでは、「内分泌攪乱化学物質シンポジウム」への参加者の期待に応えていないと思われる。実際に子供たちに「内分泌攪乱化学物質」についてどのように教育しているのか、例えば、その他の学習指導要項との関連をどのように総合的に理解させるのかなど、紹介いただきたい。

日本と海外、特にOECDや欧米との連携した「内分泌攪乱化学物質問題に関する取り組み」についての紹介がもっとあってもよかった。

(2) 専門家向け

個々の講演を、WHOアセスメント等の標準体系に対比し、その位置付けを明確にして紹介すれば、参加者の講演背景、意図が理解しやすくなる。この関連で、セッション責任者にその講演・研究内容の位置付けの紹介をお願いしたい。

講演内容と本来のシンポジウムのテーマとの対比を、より一層、明確にしていただきたい。

事例紹介やリスク評価などのコンセプトを紹介するケースでは、議論の時間が少なすぎたと思われる。

内分泌攪乱作用の「陰性情報」についてもリスクコミュニケーションの面から、より積極的に発表するようにしていただきたい。

宮城県・仙台市からの意見

一般向けのスケジュールが18時までとなっていて、一般参加者が減ってしまった。一般参加者には主婦もいて、この時間では無理があった。パネルディスカッションの内容をもっと吟味すべきである。